

伊藤物類上

60-17

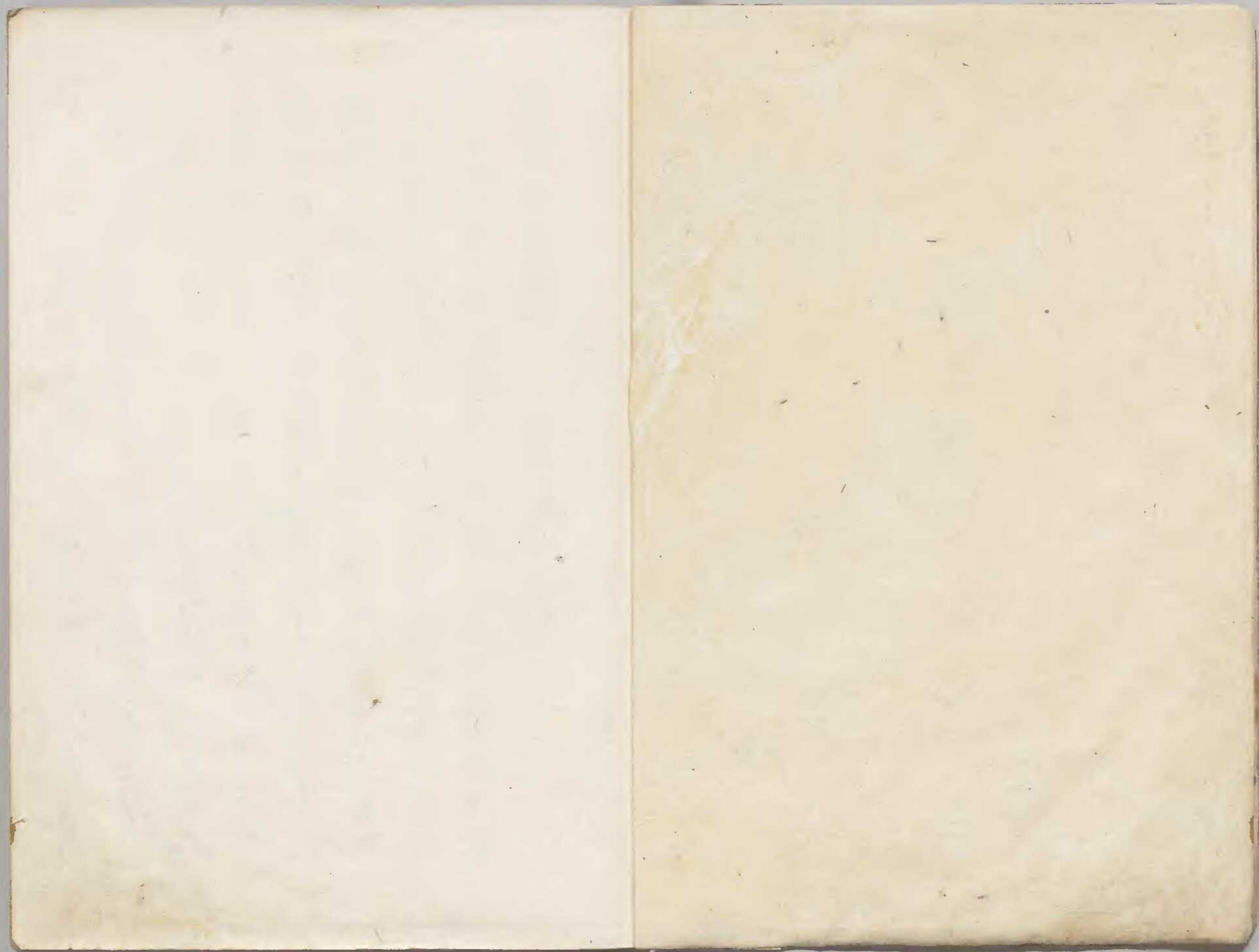
特別	和書門
一九二七	
第六十番	
二	
冊架函號類	

内閣文庫	
番號	和 19117
冊數	3 (1)
函號	特 60 17

特 60-17



い
か
あ
ら
し
と



むうーねいーうのわうありーをなう乃
京のくいのまよー一候がー志てふありす
いふくわうのまよー一候めらら一候女
えううーせとりのこのねとこかいまかんそ
くわおもおしすあるゆとすーいやりーた
ゆくとありけいよー地まよひすーあわ
男のまよわら候うりまぬ乃いさよまよて
うて候のまよをうらふおとこ志乃すけを
候かりまぬをなむきたため候

かえりのくわむうきた乃すの衣
志乃すけのまよをうらふおとこ志
とあまーまようらふおとこ志乃すけ
たのまよをうらふおとこ志乃すけ



みるるこの世もあらじかたはゆいふ
 見えぬとありまゝに思ふなり

世にふらふ世にふらふとありさし人ハあは
 いらぬやまにやひをたのん志ん歌

世にふらふとありまゝに思ふなり
 こ乃京ハ人乃ソ急まゝに思ふなり
 時小西の京ノ有女ぢわたりと女を人
 る人まきまきりあわうのえかちよわは心
 なじ梅さわもあはれなりと乃こもあはれ

里ル〜〜れをおれまはすありてこころも
 あらうひそかつりまをいそがひん
 時ハやよひ乃ついでもあまをみるにや
 久敷

おあめさのひめをてゝるをの志と
 春のめおとそなめ〜〜



甘き一木さへあわらけはうーくく女
 乃ともにはしきまもり物をもろとそ
 忍ひがしはせくくの言は祿も一たん
 ひーまめれふうを志すも
 二条此ききたのまらみおとすりもつかり
 まつち路りそく人にておりの教とま
 のことなわ

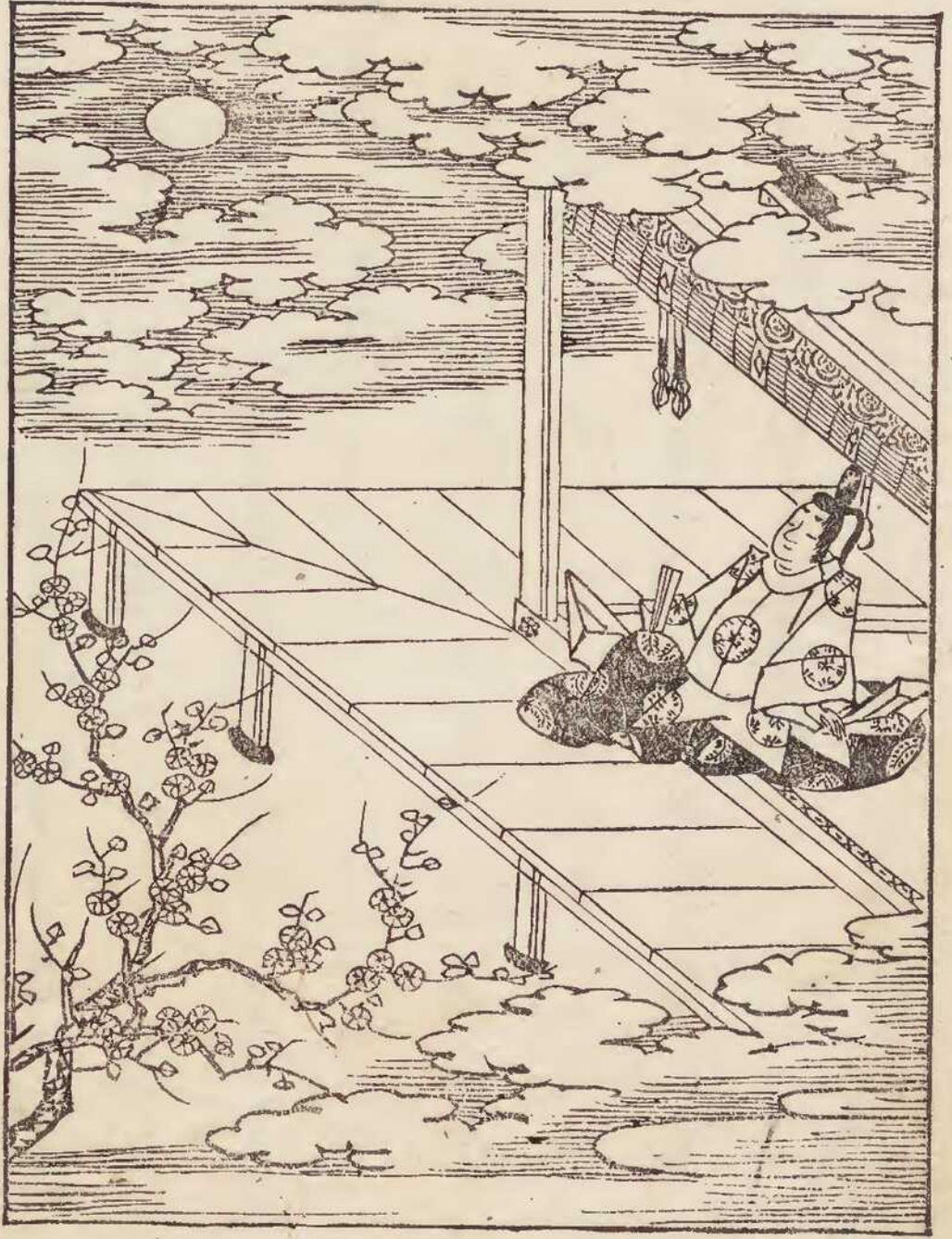


むー東の五葉ノリお屏まきつは家た
りー~~ぬ~~しル敷るー乃よいよしむりてい
家りうまむ屏いよをあそむせーぬ
かー~~ぬ~~きん人りーとあひるんはむ月の十
日りーり遠むとすー屏くたか神よんも
あわぬいさけと人履むおよふ家りとしぬ
もあーさむらぬたなまやー地おひ
はーたのんあわけん又のどー乃む月小梅
乃花さかわすーこさむこひさくこさむら

てみぬえんこれとさうたすーるあし
何ぬうもあふてあふくたかこまーは
小月のかるすーまぬせむらぬしむあむ
そーいよあぬ

月やあぬをやせーればなぬ
我君あははもとのかすー
とよかえぬ乃ほろくやあぬ
ぬくくあすわよあむ

昔々こぢりぢりわんりーお五郎とわ
 可いやーのひてしまもわみるかな
 ところあれいあとりわもえりーまうい
 一のあけけさあつひちちくはまらわ
 かよひらわ人志げらもあさねとこひりさ
 なわけはあまうーまうつけてうおらひ
 ちし樂いや小人まのうまもーせら飛ハ
 いげやもえあつてりわさくもあ家
 人志まぬわのあよひちのせたもわ





よしこゝろのりも祿ならん
 せよあかりの世のまゝあり
 里あやゆふしきりかき来たよ
 一乃ひまわりかたのまゝあり
 くれハ世のまゝせたまひけ
 依とす

若ねとてあわなわをんふのえうま
ありルル数年とてふよりひとたむる候を
うさうぬにえ出でらるるに
りあくた何とりかえをぬてしむる候
るもこのうんすをわなむる候
いおたうとたんたぬいぬる候
たはよく物もあなすはたおとあり候
ともしうとるえさくしむる候
雨もいさうありはたあつたかた

女をいたくはたしむる候
ふくひ候おひとくちすをわなむる候
あけなびとたぬいぬる候
とやちとららふらひてむらあやとんひ
けしは神かたさしむる候
おまへく物もあけぬすは神いひ
こまぬもあしすわはしあけとも
ひま

あつたかたさしむる候

露のこころをまきえまき——ものを

こねハ三葉のまきたるいや、ははれはれは
もろに決かりまつるやうふく井路ありけ
はをうたれいやうたふたふた志けは
ぬすんえたひてうたふたはをばあ
とほわかたのたとこもきうとふりつねの
大ゆうまゝ下羅うにてゆいまのきう
いびうゆくちとあるをまきつけと
うたとちのきうまうてうたうれは

あふとらこやあかりまゝいよあかうて
まきたのこころ——むら——ふたとあや



女の男あり業あり業あり何れかひてあ
 けまふ心むかひあふし物なる里のあふしは
 うみつるをゆくになん乃いや志病くたら
 坂んそ

いと志くまひりかゝのあふし
 うらやま—くもの—あなごの那
 火を舞—まゆわらぬ



昔ねとくおわりくわ京やにえうあわりん
 阿河まはかふはよてせと取もとむとそ
 とも覚しう人りしわぬたわしとあふら
 志ふのくたあきほ乃ぬけしり一葉あり
 此より取んぞ

志ふのたふあさま乃くけよたら煙
 をちこち人取もあきぬるぬ

若男も、くわう、若男が、えう、なれた、物ふせり
 ありて、京より、あゝ、志、あ、た、ま、の、か、こ、い、し、せ
 へ、あ、い、も、と、め、ふ、と、く、ゆ、ふ、あ、わ、も、と、よ、の
 と、も、あ、す、る、人、り、く、わ、あ、く、わ、き、て、い、さ、く、ま、
 み、ら、志、ま、は、ひ、と、も、あ、く、ま、ま、ひ、つ、た、あ、わ
 見、か、は、の、く、た、や、た、り、と、り、子、所、よ、い、あ、
 ぬ、う、こ、あ、な、つ、け、い、つ、ひ、く、あ、え、水、行、何、乃
 と、も、て、た、神、あ、え、志、を、や、つ、ま、い、せ、る、に、く、わ
 て、な、せ、な、た、り、と、い、ひ、く、あ、く、う、の、き、ハ、の、か



とわね木深うけにおりぬるうきよひひ
 兼あうおけハよあまはたはあお
 くさたうわうれを思えあひ人のつとく
 まはいたやりのつちも一城と乃くえんじ
 看そよみの心をよめとつひはれをよあ
 かう衣まはれまれまはれまはれまはれ
 まぬくまぬくまぬくまぬくまぬくま
 とよあわらぬへぬ人あまひひのうに
 海をさしとあひなりあわ



何れもこれにふかぬのくたこいもあぬう法乃
 山よりいりてわすれんとしうも我を以
 せらううやうさふつたか庭てハ志者わ物
 心ほうくすころあめだんうことしと思ふ
 小と行者あひうわあみらあそそあいま
 寸後とりあを見れいし人なわりわ京
 にうお人のゆもさにとそあえかまを法と
 するかたう法乃山邊のうそそりも
 後ゆもひとにあらぬなわああり



か—の山を見眺はさ月此はこもあり
雪いや志ううふまり

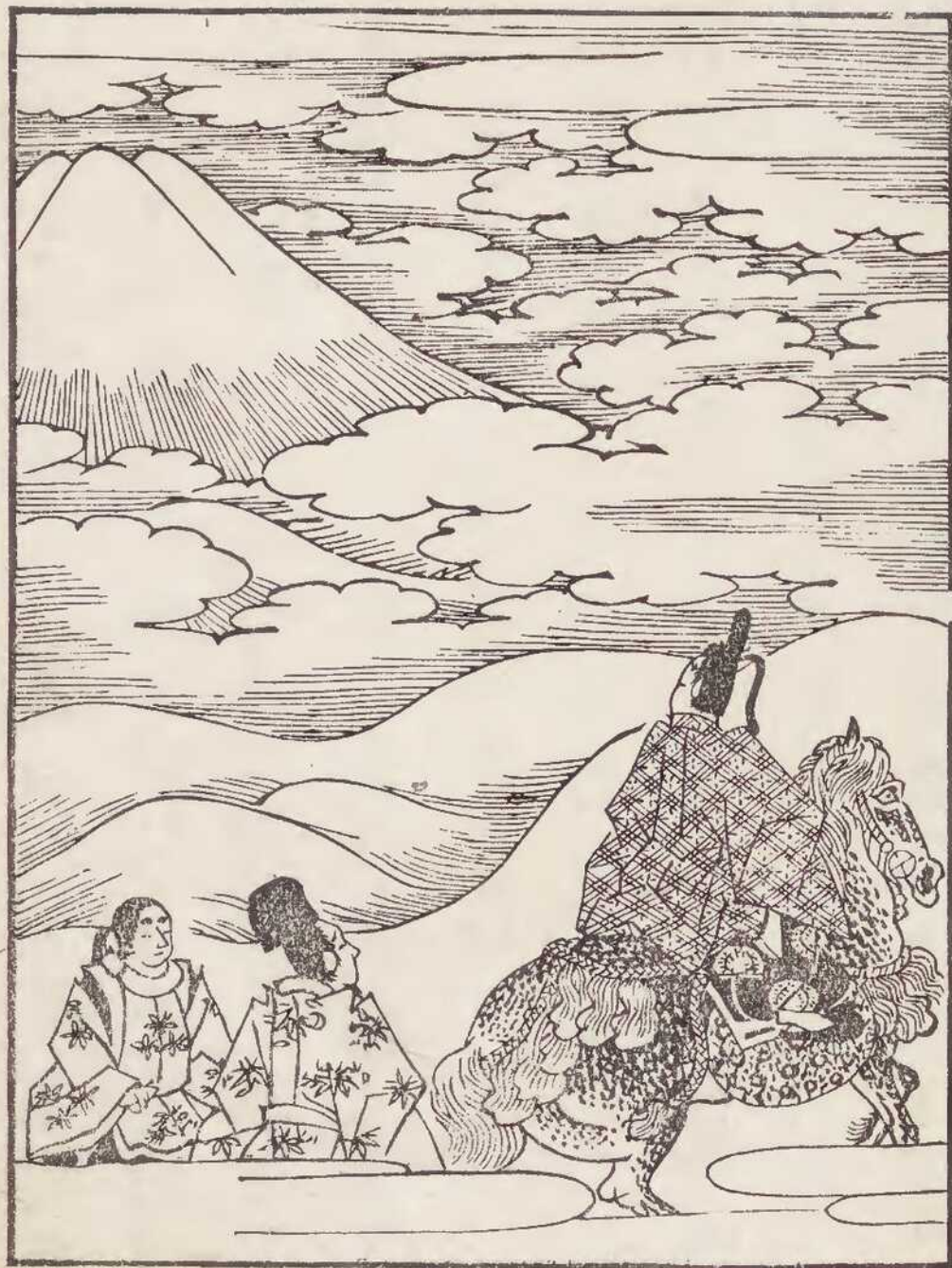
と来きしぬ山ハ百五の祿つとそり

かのこまきうすり雪乃ありん

うの山ハこよたそんはひえれやまてん

そりりりきねあけぬんかそそてあわ

を—か志里のやうになせあわらぬ



頼由とてせまき一乃くたときもつぬさ
此とよのふくふらに花もきたり河あり
うれを以てえりりあうみり乃やと里に
むきのくおひひやまはくあひなくと花と
もまよあふかあとわひあふ花ふとこも
里りやも祿す一のまほもく神ぬやいふ
あわてまたふんとするす一に取ひと物と
ひくくて京に思ふ人をたひ一も何す
市はあり一も花はなほものえ志とあ一や

あまき一花の志はなほぬ乃うんふ
何そひはくソをくくよ京も人みえぬとわ
あれハこあ人思きしとあ一もわにとひ
けはな一花なんきこまとり子花まこえ
あまき一たつこさこも一じん宮を
わら思ふ人あわなま一や
とよあわら花へ子祿とく里でたはよあわ

みどりーのこゝろ此じ乃かわもひたつたに
夫のあつていふうらやなくふは

女こゝねおんー

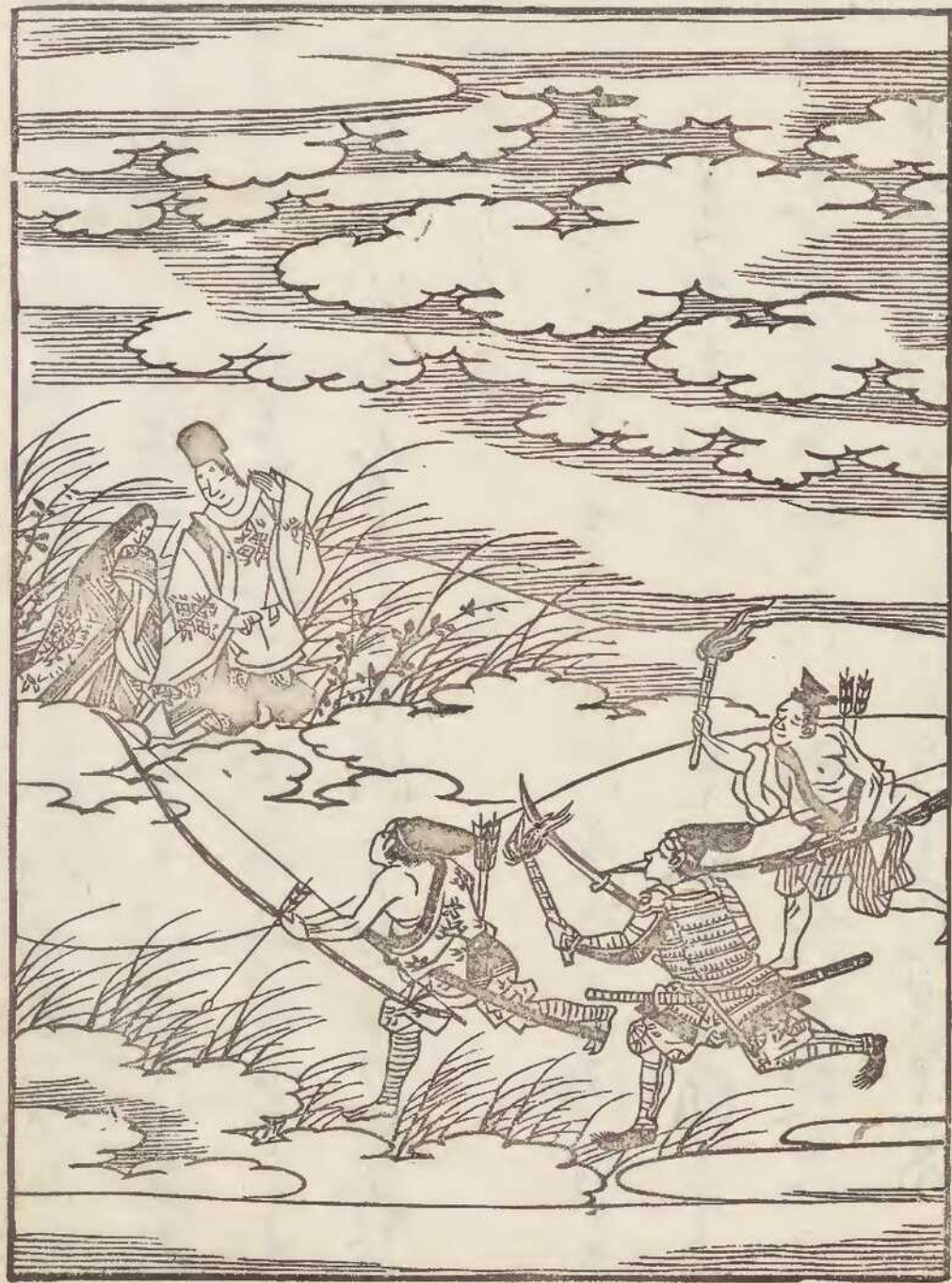
我がこゝにふはと照くありえうーみ
たのむ乃より成つたのあせまさん
定なんん儀とにうてもなをかあ事なせ
おまさわらぬ

すのーあつていふはましゆふふあすーとも
くらともにもらふりしひおこせぬ

わはうふよわとハきぬトなわぬとも
うーり用のめらりあま

昔はこゝにありあつた人乃むらめをぬけえ
あつていふ野へみよゆとやとふぬす人
なわらぬハとみえにうーめ産神有
あつたをハとむむのゆーすー成業に
けよはちちちち人乃野をぬけりとお
あつていふ火流れんとすをんふまひて

むし野ハくふハあやまうちうらき乃



けまもあもの神里我ものもあり
 としえんらふまこつた女をえとわえと
 のえいふりあり

若ききき〜あはれ〜京の女のもとに
まごゆ神いを供〜まごゆ〜ねるくる志や
かきくうはむさよむさ〜あふるとよふて
然こ勢えのちをよめさひなわ〜は神の京
よのをんふ

むしあふ〜さぬ〜ふ〜ものむよを
とぬもつ〜とぬもつ〜
とあらを思えお母た〜わ〜た〜地志の歌
と〜つ〜と〜つ〜むさ〜あふん

あはれ〜やん〜ぬん

すの〜男〜地乃〜に〜す〜ろ〜り〜い
〜に〜あ〜れ〜女京の人〜い〜つ〜か
ふ〜あ〜れ〜ん〜せ〜ち〜す〜た〜も〜あ〜な〜じ
あ〜れ〜れ〜ん〜あ〜の〜め

申〜く〜に〜慈〜よ〜ふ〜寸〜ハ〜き〜よ〜り〜や
な〜あ〜〜あ〜り〜の〜歌〜を〜乃〜を〜り〜や

〜い〜き〜ん〜う〜ひ〜な〜い〜た〜め〜ら〜あ〜さ〜ぬ〜っ〜あ
〜い〜と〜あ〜の〜ひ〜ら〜せ〜い〜さ〜ぬ〜ね〜よ〜あ〜あ〜ふ

かゝるに下りては神女

衆も四ハまつふにめあぐらゝいけの
まゐたふあひてさそをやりたり

定いつたふりおとこ家へなす百の歳とそ
くわりののおとえ乃松原人なすは
言者此法とたつきとつゝを

とつちけはあまのりこかひそがひひら
しとさうしひまわらぬ



若みら乃くはてふてうこやなれた人の欠
よかもしんぬすいあなううさやうにて
あつ家り女ともあつはみえはれを

志乃ふ山思ひてううふらもろ那
人のうろ乃おとも思つて

女うあわなううたーと思へやあはさ
う那きえひと心越思えをうはとせハ
せうーたのありつ祢とりあちと何さうわ
みよおみおと小はかうまうわてと義所

あひくれ世のちハをかちわうつあり
はあはよれつひ人乃とも何し人
あはうたうーくあははうなふこも然こ
乃んそこもう人おもふはまは志く有ても
なをすのよかりー時の心あうよの
つひれこやもきうすやーはあひあれ
えあめやあうーとこえな飛つあふ
何まになわてあひのさたふらてありは
あへりやねとあことすーむはまー

ま事いふりし我今ハとゆく候いそ
あふとと思はせたまつ—は物ハするわ
きもなかわ事おあひまひを祿んこは
有あひあふしひと教ともちものもに
かうくしまとを梅うりるを服うりこと
もつきかかふりこともえ勢え流ハ寸こ
と—か貴をおくた

て哉おわてあひみ志もをかうふ祿は
此たとひひ候よ候ハ—す—者わ

かのともからいおおんく—いやあふと
とらて—のめおまををうわてよふ候
年たよもと候とをよ候つ—ふと教を
—のこひまきをた乃こまぬ—ん
あ—のひやわら候を

—のまをみけ—やたてまうわら
—のこひ—ふ—又

秋やうつ世やまあふと思ふま

あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ

あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ

あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ
あははなごたのあはにうあわらふ



女の男にやほひてある女のかさふこ
 うもなわらぬ人哉あは志里たゆらぬをと
 も照くよきにやわおまゝ一可あれハ女深
 め入り冬見ゆる物うねをこをありもれ
 むもむひこしをんふ
 けまちものうも人乃なわゆか
 きのりすめも冬みおるゆか
 せうわらぬ物おとせ
 あはせのよるふ乃こせてあるふは

わづめり山乃かせんやこたわ
とよりわけり冬みぢやこおぬ人となん
心の乱

さう男やまとにあはぬ女は思ふよりひて
あひよきわさうやとて言はぬ人
あひらねたかつりくるはれふやよひりわ
可かえてはもみらの心とたし海まを
おわて女乃もとにうらよきしひを
君かこ欠よお神了えたをを敷なかな

かくさう秋乃もみら——よき

とくやまうわけり冬みぢやこおぬ人となん
てなんもてさうあはれ

心のまにうけろふりり乃はまぬ鏡
まゐりあはれをまふりり——



若男女いざりこくばひかりてこそ
 心あわらわらばは哉りのたかりこと、何れ
 じんじきこゝあるこもつげてよのたす
 まうりと思てしそいなんと志りてかば
 うて我なせよかそめおよむまつげん敷
 しのこいふいほり志としひやとせ
 せのぢりしるを人りし祿は
 せいのこをわけてしそいりわ、はなぬか
 ぶを記しは哉くうをよとせりよ

おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと

おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと

おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと

おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと
おやしぬを服すりこらわす、かゝさんと

おすゝらんや思ふ心のうらひなり
ありーうわらふおもうるありた

五

ふ、空ありふらぬる雲は何ともなく
君乃んかなくもなむよさるる那

とらひひもさと我のかせにふりなむ可
は神ありとくあむにたり

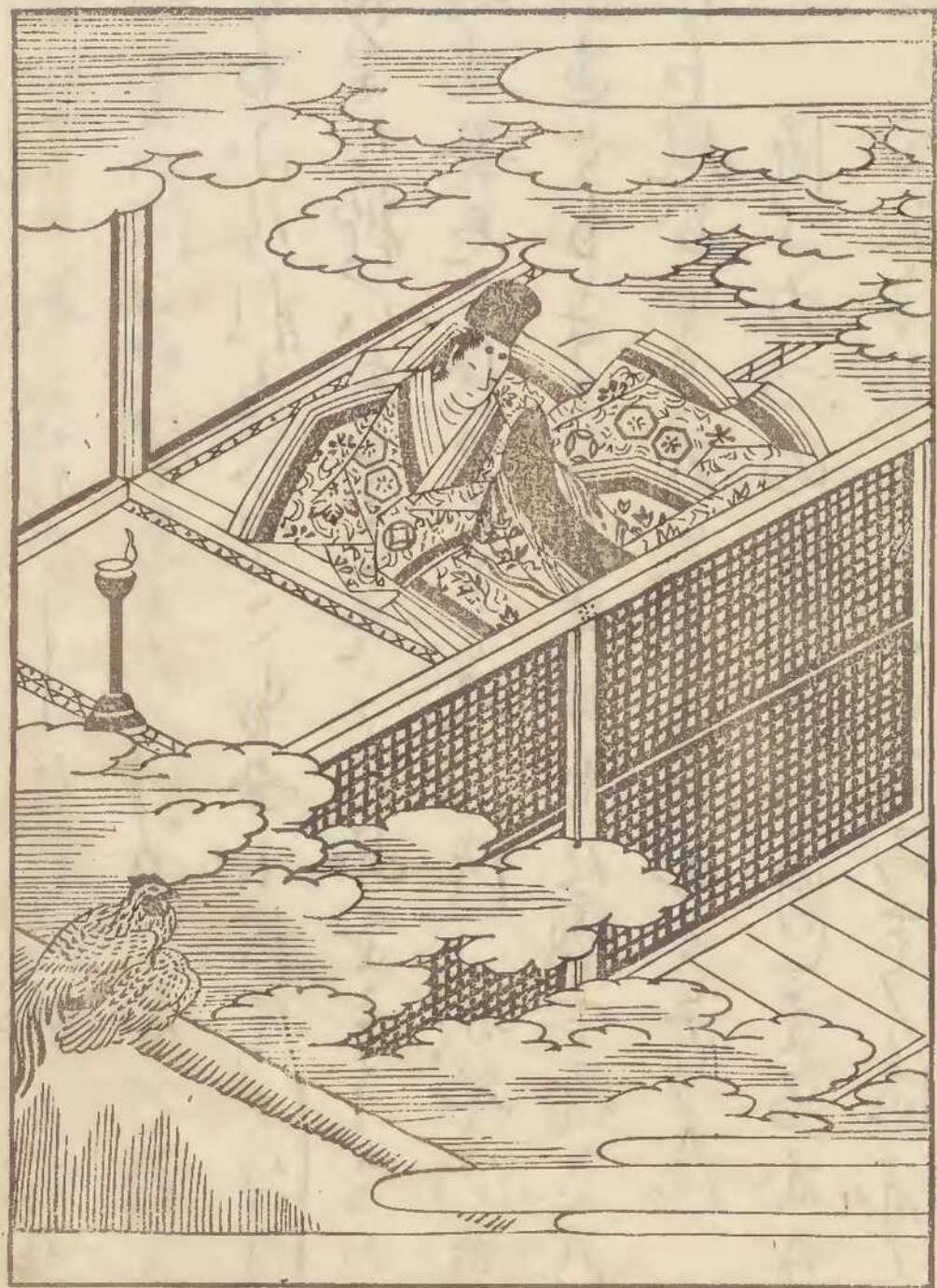
若んかぬくたえふりりあふりちをやと
は神ありはむのものとあり

うきあうう人をいえ志もをを思ふ
うたううみはく程を思ふた

はしん里はれをささむはよとしひておとこ
おひをそいひとつをいはしませ

水のあふさてさえーとさう思ふ
とらひひは神ありお思ふりーありなり

志へりきたはことともあといひて
秋の穂乃ちよれりさふあすうら
やちうーねんあくあまのあらん



あ

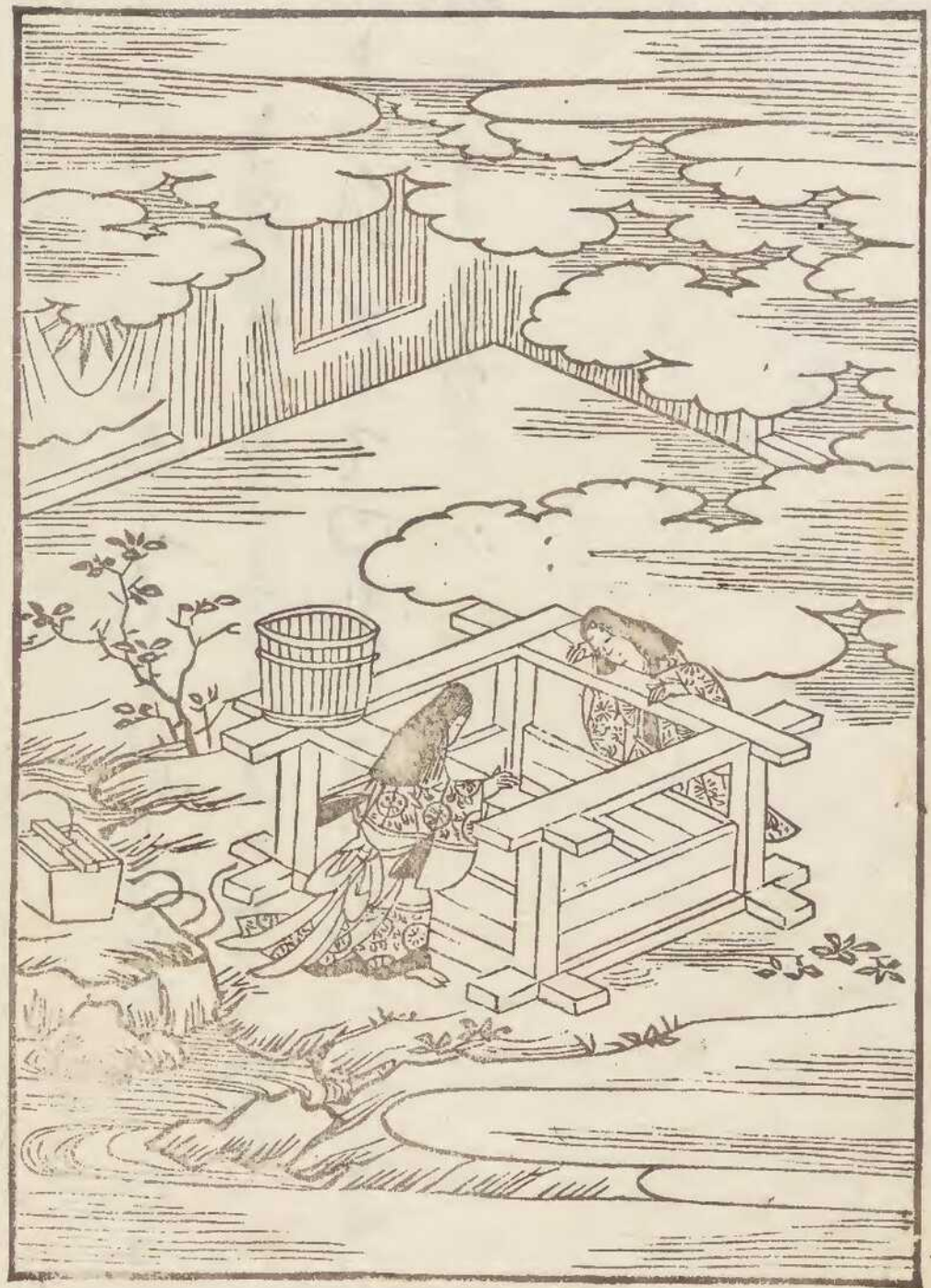
あき北よのちよ故一葉に眼せりやも
 こやえ乃こ里々ともわやなれなむ
 以りへよわもあひさるしそなるん
 およひんぬ

昔のな、わゝ羅ひーハ教人のことも并
乃もとにソ〜あうひける故おと服アリ
たわふハ水たたやこも女もはちのりて
何〜ハ神ハおとこを〜の女を〜うえめ也
思ふ女を〜男を〜心ひけ〜おやのあ
いさともまうてなせぢりぬさそこ乃と
たわお少〜乃もと〜わお〜たのん
け〜ぬつの井〜にけ〜まるか〜け
寸短子ル〜あいもみさる海有

あ

く〜ハこ〜さゆめけ〜あ〜にまぬ
きえな〜せ〜せ〜あ〜家
ふと〜ひ〜く〜そつ井〜可〜あ〜の〜ま〜と
あひ〜り〜ら〜ち

けりや——海あるやとに女おやた
 りの暇くふ家まふもろともにりあひ
 ぬくやうんむいとやかうち乃たた
 かやすのこあわす——いまのこふ所
 にかわさわくれとこはもらぬあーと
 へ家業——まもなこてい——やりけ
 男ことらあわてかふよやあさと
 うこぬひそとせさのふりなりか
 のんかうちへいぬるかかにて
 見まぬか





女いやようんけうーしんぐらふうそ
 國あれいおまつきうなごうた山
 ねまよやまきおらうわこゆん
 とくえんあまきうてうあわゆくああーん
 ねひてううらこもいのけなわすうらわ

はましくかのたかやせにまきこまはけ
めことうころすくもつらわんれいませ
うらと棠々々清々い井くひとわでけ
こ清うつえ物有りもわんをんそんう
かわていおんなわよあわあわはははら
女や中の方かこ哉見やりて

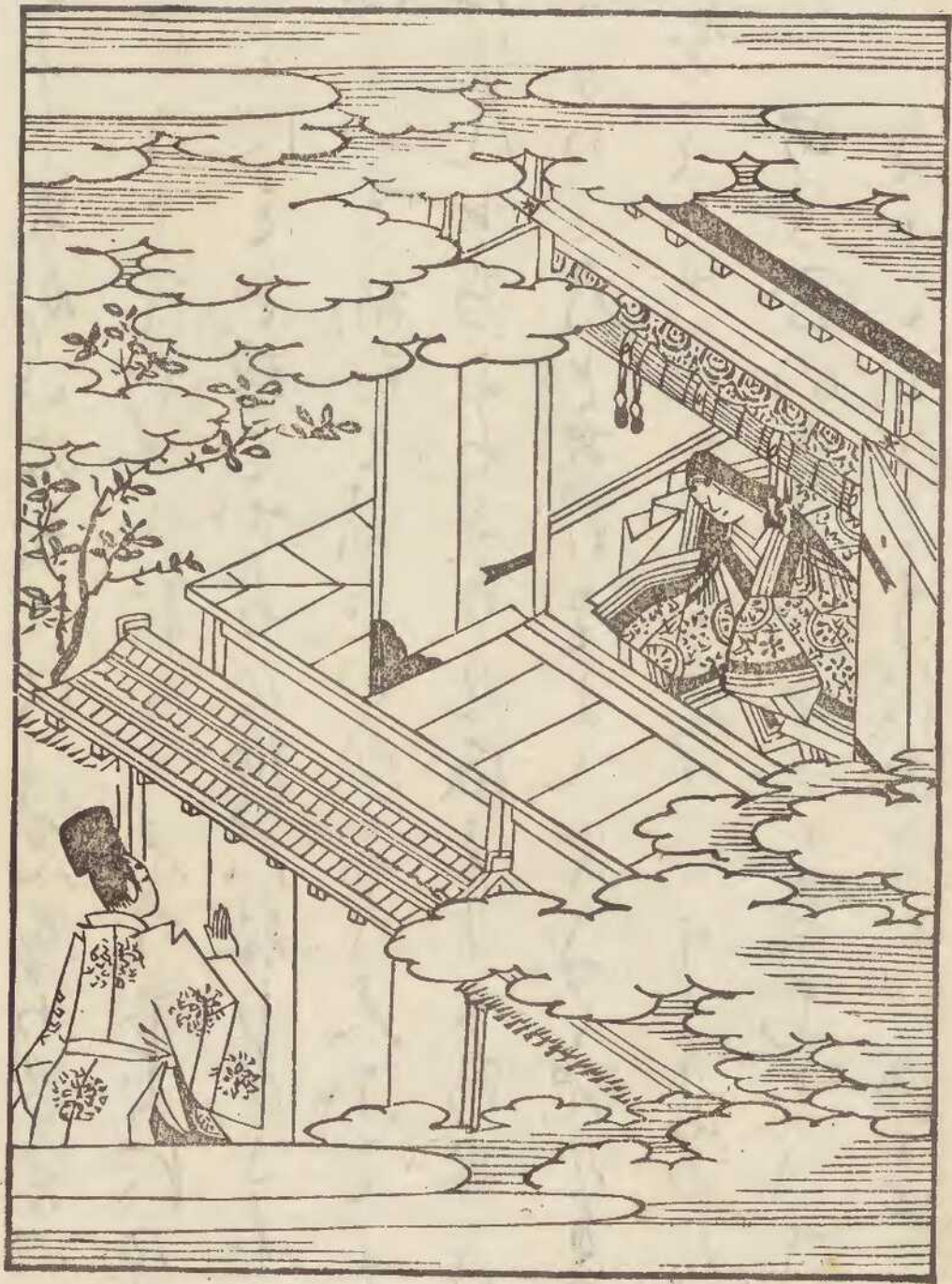
きんあさみ清々をん伊弱心
くもふかくうあはあるとも
せいひてみいもはかろ字一こやま

いとこんと伊入里うらこひまはけ
はくくまぬま

君こむとひひ一衆こより寸たぬ
た乃まぬものこひけりあふ
定りの共社とねこひ下候なわにらわ



甘う男かゝぬなりには見やわ男きつか
 庵しとやわりのとた——思えおまにら
 まにこと勢こさわは神へはわひさわけ
 庵いや祿むにぬにソひあう人ふこひ
 けんちちあわさりら庵りこの男きた
 りらわこ乃とあけをまへやうて記ふさや
 何ぞうて我なんよかんそいこもあはら
 あまの年乃ことせをすちまひて
 うとこよひことうに井百くく快也



とんひつーたわらねを

あけさうまゆこつまゆえとーまこ

かのせーのことうけりーえせよ

とんひつーたわらねと志乃娘

何れさうひんやひかひとせよーらわ

こころハまこつらもわみー物を

といひけさとおとこつらにかりぬえ

かろーくろー星ぶらをひけと

えをひけつて志乃のあらぬーすに

りわうこはわらううしんまおよひ乃ちう
うまつけんぬ

あひおもえてうまぬる人城とくう
わう男をいほそまてぬめぬ

とわきてうこすういたううふなわまうり
昔たごいあわらありーともいはさわ
けんをんふのさぬあわらうもまに
いひぬりぬぬ

秋乃野よさく見れ志あさの袖うわめ

あつそぬぬうきひらまわらぬ
うらふまこなふ女う

んかめがた我男城ううと志う祿うや
うまあそいあ乃あーたゆえう

すの男と糸わらわなるぬ女をえいす
なわらぬこやうわひうわらう人のみるに
おもわくを袖にうぬ中万きうくう那
もろこー乃うわ志うりう

昔あそい女乃もまにひとぬぬてあまい

かしなわすりし神女比てあり好可なり
 ぬます哉もらやまてた舞ののけよ見え
 しかをこつゝ

五神のわ物思ふ人冬まるもあつゝ
 とたもへいあ乃志たももありあわ
 此よむをこきをくらうおさひもあつゝ
 こあららよあや見ゆむのいつさ
 水乃——にしてもろこ志ふなく





昔よりいふはこたわらぬ女はそとに
 ふとてかくあふこころふあわに
 ぬもさきとせはしむれは
 昔々春宮の女は乃所かゝれふ
 りあけけ履進こわきる所
 花よあ、ぬあけききつむせ志あとも
 宗よ乃こよひにこころあひま

若松やこえつらわらぬ女のもどり

あふりひたぬ乃をりりなむあして
了まの有りくみゆらん

せう言深うらなりてあぬこら法の
か祿のまをわらわあふはなり乃何
なりおたもひらんやうやうきんよ
んさのこむとりあむこ

狭みもあふ人をうけへハわぬれを
まのかうんすうおふとりあたり

とつ子をねこむ女もありたり

せう物ソひくらぬにとりてあわて

ひりへの志法乃をたまふらりあ志
じりてあいまなりあけりもり那

せいつかりれあふとあ思んすやるあ
すの男つ乃くらせりてあわよあよ
ひん頼女らあひいあを又ハこり
おもふあれいあそこ

あへらわらぬ志厚のいあこ

昔に... 涙をむもひ可は、眼
—

こもわ江ノ一思ふころをソそかた
あさのさほつて— 旅業の
井原、人遠くとてハ— 何— 居
せ— ねとこ決まふりし教人旅もくに
— へえよ— 祿はむはよき— へえ
心ちと決有りあけく— ちろ那
たもな— 伊人夕陽る—

若心もあつてたえ— 旅人のも— へ
おのを— あも城よ— わて— じりん
— えての— ちもあはんと— 思ふ
— へえ— ねとこ決まふりし教人旅もくに
— へえよ— 祿はむはよき— へえ
心ちと決有りあけく— ちろ那
たもな— 伊人夕陽る—

答せば見みねまを— へたたま、け
— へえ— ねとこ決まふりし教人旅もくに
— へえよ— 祿はむはよき— へえ
心ちと決有りあけく— ちろ那
たもな— 伊人夕陽る—

我なして志しひもとくふあき、何の
ゆふけはぬえぬえと人のあわとも

五

ぬふり志てせとびーはも我ひとし
おひんかまていとーとく思ふ
すー紀法ありつひくりしまたあは
業をうくまあふりよかんそあひく
まふふら思ひなすひぬ世のゆ乃
人登之れをなこひとりふく舞

五

ふく人祿ハ世の人ことりなふまも
こひとへりあやひーと神志も
若西院乃見かとく申は見えおわり
はーくわろたかとのほこもーいんや
中すいまうかりくわろのみこうせ強ひそ
たはんはあり乃たうた宮のたわあま
あふたこいんあわ見んとく女車り
あひらわてつてあまわいやひさう

井をいそいでたて下はうせうらぬよてやみ
ぬへふりルカあひたすいあめ乃——遠
りりて居る保のりさうやりよ人、井も物
と居るなりは車と刃をいそわき
とかくたぬめくあひふすいあめい、居を
と居をとわて女のくるまよひさうりら
ぬとる梅なもあう人、の保たう乃とも
火もや見ゆんとも——んちたのんす
とてのまゝおとて乃もあう

いそいでたて下はうせうらぬよてやみ
ぬへふりルカあひたすいあめ乃——遠
りりて居る保のりさうやりよ人、井も物
と居るなりは車と刃をいそわき
とかくたぬめくあひふすいあめい、居を
と居をとわて女のくるまよひさうりら
ぬとる梅なもあう人、の保たう乃とも
火もや見ゆんとも——んちたのんす
とてのまゝおとて乃もあう

いそいでたて下はうせうらぬよてやみ
ぬへふりルカあひたすいあめ乃——遠
りりて居る保のりさうやりよ人、井も物
と居るなりは車と刃をいそわき
とかくたぬめくあひふすいあめい、居を
と居をとわて女のくるまよひさうりら
ぬとる梅なもあう人、の保たう乃とも
火もや見ゆんとも——んちたのんす
とてのまゝおとて乃もあう

いそいでたて下はうせうらぬよてやみ
ぬへふりルカあひたすいあめ乃——遠
りりて居る保のりさうやりよ人、井も物
と居るなりは車と刃をいそわき
とかくたぬめくあひふすいあめい、居を
と居をとわて女のくるまよひさうりら
ぬとる梅なもあう人、の保たう乃とも
火もや見ゆんとも——んちたのんす
とてのまゝおとて乃もあう

いそいでたて下はうせうらぬよてやみ
ぬへふりルカあひたすいあめ乃——遠
りりて居る保のりさうやりよ人、井も物
と居るなりは車と刃をいそわき
とかくたぬめくあひふすいあめい、居を
と居をとわて女のくるまよひさうりら
ぬとる梅なもあう人、の保たう乃とも
火もや見ゆんとも——んちたのんす
とてのまゝおとて乃もあう

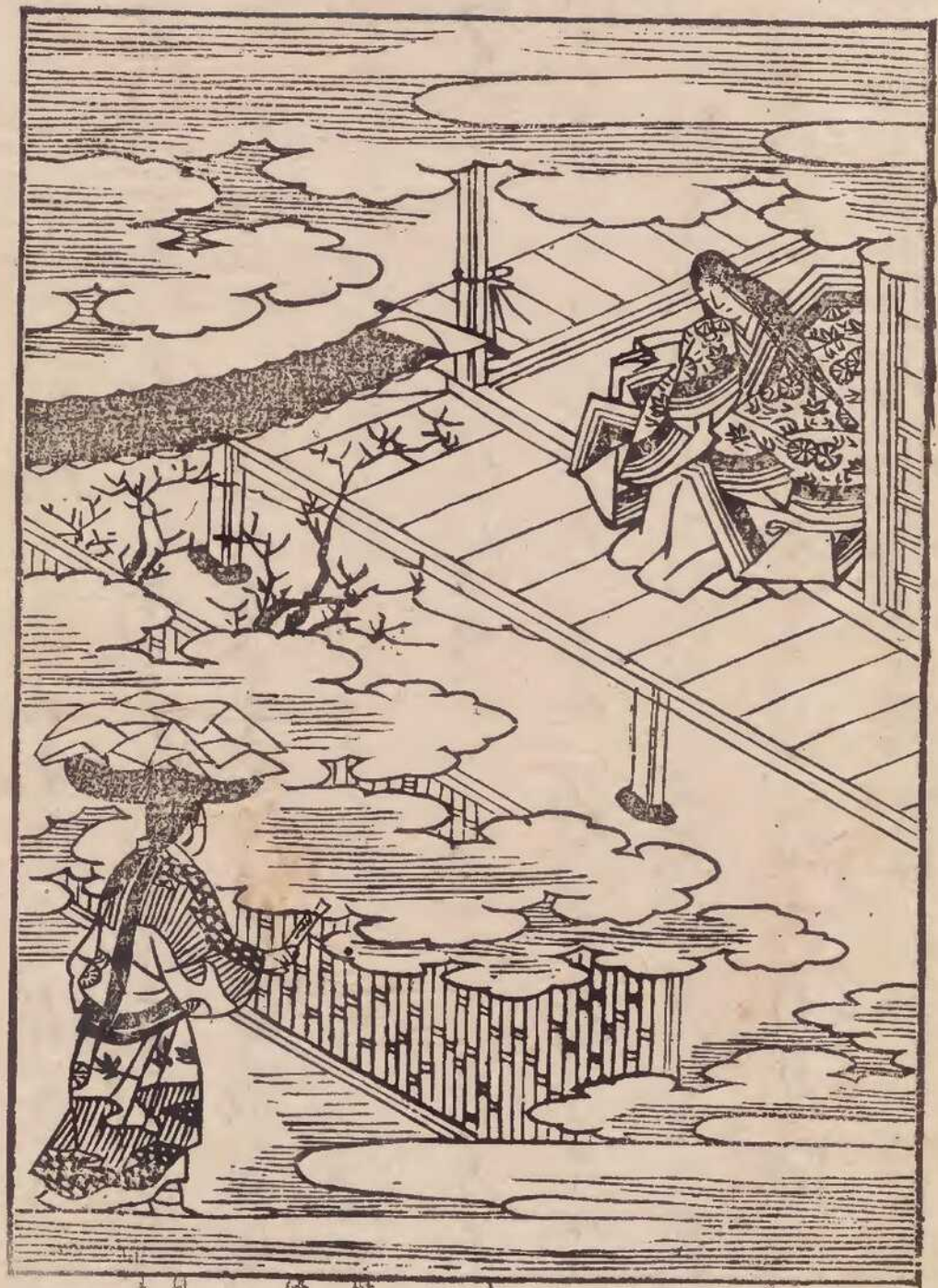
着わのまねとこりーうをあゝぬ女を
おもひにわさきー種いろおや所りてさ
もうけくともく度ぬ扱ほくへをひなさん
と寸布さう伊入まをいやくひちと乃こ
あれい梅さふくさたひなりりし物と
せうまおひあーをんあもいやー
しれをにまあちううあーさうおひた可
おひひをいやまき里ま下布ふえくお
なくの女をいひう度おとちの縁を照

せとめさくじりあーのえりそくひぬ
おとくおくくもあ

ありーは海さうれふをあーも
じやかんさえつかりー常ありおやあはえ
よあわあをたもひてさうソひーいや
かく志もあーと志ふト志ん志ちに
さえりかりーれハマとひて教をさくわ
れふ乃りわあひりりあふんえりきて又の

はのいぬ乃ときさつらわにふん〜さ〜て
つたつて〜わつらす〜のちの人のいさる
とけつ物おひをならんそらあいまのた
まふまさ〜しきふせや
む〜めり〜か〜ぬ〜わらりりりりハ
いを〜まむや〜は下流〜まひとわを
あてたの男も〜りあわい〜交男もた
う〜えいのけちも里よ〜ん此たぬをあ
舞ひ〜つか〜るらわ〜さ〜ハ〜

け〜とさ〜いを〜ま〜もな〜んさ〜を
此物へ〜ん乃おぬの〜たをらわやりて衆
里とせか〜も田〜え〜んたは子照ぶらわ
こ〜おめのお〜たのた〜ま〜て〜い〜心
〜〜かわらぬをい〜やよ〜うた〜ら〜う
あ〜保〜ん乃きぬをい〜そ〜〜と〜と
む〜きたの〜つ〜ま〜時〜ハ〜ぬ〜も〜教〜小
野な家とさ木〜う〜わ〜れ〜あ〜ら〜ぬ
甘〜〜野乃心ぬ〜ら〜



若木とこいれはこ乃さや一はく女哉
 あひいつりわさ神とくくえたあさき
 里りわ志えくしこふとまをいさう志
 初めたとさわとくしりてはもえありま
 くりら里程いたえ何さわら敷伸なわ
 此物ハあ流り三日りわはを敷ことありて
 え伊りてぬくたのん

若こ志あやこにい備るかりし志を
 むりあひちやいまあるん

どのうにかりーさるもあつるあわりり
せうーののみこと申しはみこおりー
まーあわりりお見こぬ城はほーりー
いやーことめくこつかりひる家を入
たぬめまぐあわゆる城と神乃ことおもひ
ル歌を又人あつてあえゆるやとーま
寸乃つたをおまを

郭ふつなく市との何まああまを
なをうとほまぬおもふのかう

此のつらふ女りーおをどわて

みのミたらー乃うたぬんさうなく

いほわあまるとうと不神ぬまハ

時をき月入りなんずりな家ねとこぬー

いあわたほほきてのたぬんをを乃す

かのほむさもたこえーこえすを

すのーあかふこりり人りーむまれんあせ

けせんとうひてうとまき人りーあうさ里

及神ないえとうーさ、月さくさく女の



田舎かたの家のの上まほいぬあしく
 秋、勢少くをふりすーつけこせ
 く神かたの妻はほくろ志ふ、それハ
 うまこいこふくもれうろあーな

甘き男いやうは—ま中もあわあわ
た時さういあひおもひ久敷と人のくたこ
いさけり強いやあを飛とおひひてわら
可うわ月日つてをこせなぬあこよあき
海—くえこいめんおぢ月日のこり
あうこや忘や—けひんやうこ思ひ
まひてたのん付を律—乃人の心あめり
神ハおとまぬ余の物にどうあたまとい
里ハ神たよかをる

めろともおもわく照くしお候ふ候と
とま—あはれおもつけに
あう—おとこ祿ん—あう—ソとこよ小女
ありかりさ迷とこおたこ—強あ—なわと
まうては神をそ乃とまき里けり—
おはぬきのひく—あま—なわぬき
おも—とえ—た乃海あわけ

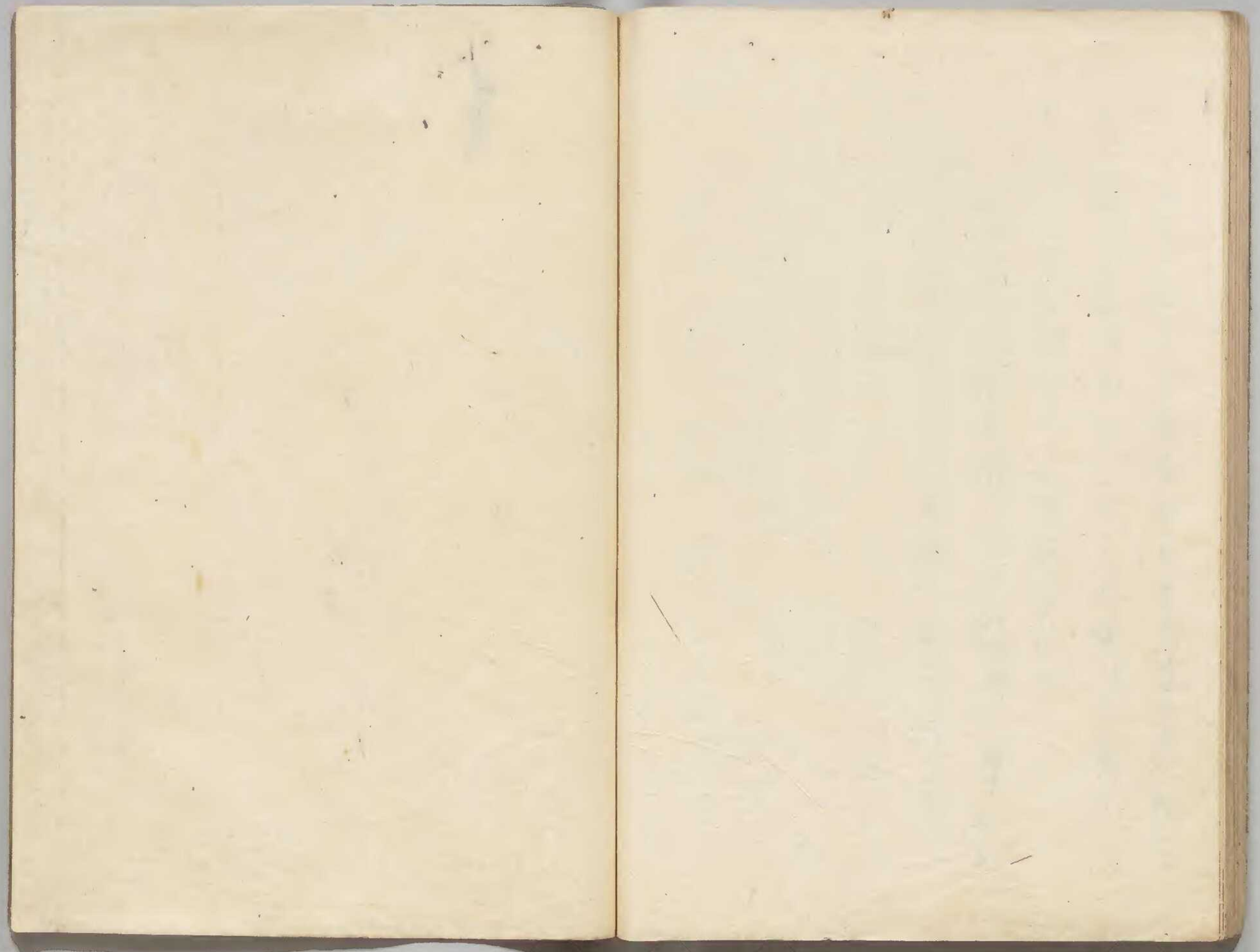
あ—おや—
おかぬ市とみよこ—あはれても

流井小く勢をあらとりよめおま

者たごころわむま乃えふせけとせと
人城まぢぢるすしこさわんねハ

いまう志願と成りき物と人まじ
さと城ハまじりとぬへかりあり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



七
三
三

